

1 学校教育目標 「温かい心 強いからだ すぐれた知恵」

2 重点取組事項

- ・ICT活用によるアクティブラーニングの研究を深め、児童の学力向上を図る。
- ・命や人権を大切にし、自律と協調の姿勢をもつ児童の育成を目指す。
- ・安全で安心な学校づくりのため、教職員の危機管理意識と危機管理能力の向上を図る。

3 学校教育に関する重点取組

【自己評価】

(基準 4 : 十分達成できた 3 : 達成できた 2 : 取り組んでいるが、成果は出ていない 1 : 取組が不十分である)

1 教育・学習内容を充実させ、確かな学力を身につけさせる		評価
(1) 授業改善の取組を促進するとともに家庭との連携により、学力向上を推進する (2) 特別支援教育の取組を充実させ、自立や社会参加に向けた主体性を育成する		3.0
取組とその成果	課題と改善策	
<p>年に4回の全体授業研究会(各学団から1名授業・全員参観・事後研有り)と1人1授業(全員が最低1回授業を公開・随意参観・事後研無し)を実施した。指導案を学団で検討したり事後研で活発な研究協議を行うことで、教師の指導力向上と授業改善が図れた。</p> <p>学習の手引きを作成し、身につけさせるべき学力の目安とした。</p> <p>特別支援教育コーディネーターを中心に全教職員が要支援児童についての情報を共有できた。また、ユニバーサルデザインの視点に立った特別支援教育の研修を行い、支援学級の児童だけでなく通常学級に在籍する要支援児についても理解を深め、よりよい指導のヒントを得ることができた。</p>	<p>新学習システム・児童支援加配・アクティブラーニング推進事業等を活用し、よりきめの細かい個に応じた指導を行う。学級の様子、児童の様子に柔軟に対応し、常に最も効果的な体制に更新していく。</p> <p>今年度の全国学力・学習状況調査の結果からも家庭学習が不十分であることが明らかになったため、児童にとって取り組みやすい課題を与えることや家庭の協力を得るための具体的な方法を検討していく。</p> <p>「個別の教育支援計画」を作成することの意義を保護者に十分理解してもらい、学校と保護者が協力しながら将来につながる支援を模索していく必要がある。</p> <p>通常学級に在籍する要支援児が増加しているが、現状の教員数、支援員数では十分手が回らない。</p>	
2 心の教育を充実させ、自己実現の意識の高揚を図る		評価
(1) 道徳性育成の取組を促進し、思いやりに満ちた人間関係及び社会とのかかわりづくりに努める (2) 基本的な生活習慣確立の取組を促進し、心身共に健全な育成を図る (3) キャリア教育の取組を促進し、社会的自立に必要な能力を育成する		2.9
取組とその成果	課題と改善策	
<p>教育活動全体で道徳性の育成に努めた。「心の教育講演会」では生命尊重の気持ちと規範意識の育成を図った。今年度は高齢者介護とネット社会における情報モラルをテーマとし、全学年対象に実施した。</p> <p>基本的な生活習慣、特にあいさつに関しては生徒指導部や児童会を中心に年間を通して取り組んだ。</p> <p>5・6年生を対象に、園田公民館の学社連携事業「社会教育地域力創生事業・生き方探究キャリア教育」を実施した。様々な職種の方から話を聞いたり質問したりすることで、将来の夢や進路についてある程度具体性をもって考えさせることができた。</p>	<p>「心の教育講演会」のテーマと講師の決定が毎年難航する。児童の実態と時流とを見極めながら設定していく必要がある。</p> <p>生活指導や問題行動の指導は家庭と連絡を密にとりながら行っているが、協力を得にくい家庭もある。遅刻の多い児童や不登校傾向の児童には生徒指導担当と児童支援教員が迅速に対応し、状況の悪化を未然に防いでいる。</p> <p>キャリア教育指導計画に基づき、教科や行事の中で将来の夢を考えたり様々な職業について関心を持つような時間を意識して設定し、キャリア教育の推進を図る必要がある。</p>	

3 食育や体育を充実させ、健康な体づくりに取り組む		評価
(1) 食育を通して生活改善の取組を促進し、望ましい生活習慣を育成する (2) 体育・スポーツ活動の取組を促進し、体力・運動能力の向上を図る		3.0
取組とその成果	課題と改善策	
<p>栄養教諭を中心に、全学年において食の大切さを知らせ食生活を見直させる授業を行った。(6年保健生活習慣病と野菜・6年家庭 バランスのとれた献立・4年保健 健康な食事・2年生活 夏野菜を食べる等)</p> <p>月2回、朝会体育(全校生で運動する)を実施した。児童の発達や興味・関心に対応した体力づくりを継続的に行い、年間を通して運動に親しませることができた。</p> <p>持久走大会や大縄大会などの行事を行い、体力増進への意欲づけをした。今年も「あまっ子ジャンプ チャレンジランキング」に取り組み、楽しみながら体力向上につなげた。</p>	<p>給食週間の行事の充実を図り、食への関心をさらに高める。</p> <p>栄養教諭による食教育をできるだけ多くの学年や教科で実施し、食品に関する知識や食生活のレベル向上を図る。</p> <p>「給食だより」で給食食材に関心をもたせたり、望ましい生活習慣について啓発する。</p> <p>朝会体育では「園北体操」や「園北ボール体操」、縄跳び、ドッジボール、持久走等を実施しているが、ラジオ体操の習得が不十分なまま中学校に入学してしまう。そのため高学年の体育授業でラジオ体操を指導する必要がある。</p>	

4 安全な教育環境を確保し、防災意識の高揚を図る		評価
(1) 安全教育の取組を促進し、登下校及び校内の安全確保を図る (2) 防災教育の取組を促進し、危機管理能力の向上を図る		3.0
取組とその成果	課題と改善策	
<p>毎月の安全点検を確実にを行い、危険箇所をいち早く発見することで事故を未然に防いできた。登下校の指導に関しては、各学級や学期に1度の地区別集会で徹底して行った。またPTAや安全ボランティア、地域の企業等の協力も得ながら交通安全に努めた。</p> <p>阪神淡路大震災や東日本大震災等から得られた教訓を生かす防災教育の推進を目標に、資料やDVDを活用しながら児童の防災意識を高めた。</p> <p>火災、地震の防災訓練及び引き渡し訓練を計画的に実施した。</p>	<p>安全点検がマンネリ化しないよう、全職員が責任感と危機意識をもって担当場所をチェックする。</p> <p>毎年不審者対応の研修を行っているが、実際に危険な人物が侵入したら訓練のとおりに行えるかどうか、全職員が不安に感じている。まずは侵入を防ぐため、安全管理員とも対応をシミュレートしておく必要がある。</p> <p>避難所対応マニュアルの認知が職員の中では十分とは言えないので、危機対応マニュアルとも併せ、内容を職員に周知徹底する。</p> <p>津波の避難訓練に関し、水平避難も含め計画的に行っていく必要がある。</p>	

5 家庭・地域・学校の連携を深め、信頼され、活力に満ちた学校園づくりに取り組む		評価
(1) 教職員の資質向上の取組を促進し、学校の組織力及び教育水準の向上を図る (2) 地域の教育力を活用した取組を促進し、開かれた学校園づくりを図る		3.0
取組とその成果	課題と改善策	
<p>研究テーマの下、全教職員が同じ目標をもって研究、研修することにより、一人一人の資質と能力の向上が図られている。また行事や諸活動を進める中でも協働体制がしっかりとできています。</p> <p>園北ふれあいまつりに地域の方に来店してもらったり、囲碁ボールやゲーム等をいっしょに楽しんだりして今年も交流を図ることができた。</p> <p>年2回学校公開を実施した。期間には授業を見てもらうだけでなく、お話し会や持久走大会、人権教育講演会などの行事も参観してもらった。</p> <p>毎月の学校だよりや学年だよりに加え、都度都度の行事や出来事をホームページで公開し、広く情報を提供した。</p>	<p>若手が多く中堅が少ないというあまりバランスのよくない構成(県費教職員の3分の1が20代・40代は4名)だが、全体として手薄な部分がないよう全教職員で協力する。若手の育成についてはOJTを中心にを行い、各自に責任と自覚をもたせることで、全体としての組織力向上を図る。</p> <p>昔遊びや花植え等のゲストティーチャーとして地域人材を学校に招聘するといった活用ができていないので、今後検討していきたい。</p> <p>保護者や地域からの声を真摯に受けとめ、課題となる事柄に関してはスピード感をもって改善していく。</p>	

教育目標		評価
(1) 教育目標の達成に向けた充実した教育活動の展開 (2) 教育目標の具現化と指導の充実		3.1
取組とその成果	課題と改善策	
<p>全ての教育活動は、教育目標である「温かい心・強いからだ・すぐれた知恵」の達成に向けてなされているのだということを全職員が意識できていた。</p> <p>教育目標が児童にも浸透するよう、折に触れ分かりやすい言葉で伝えてきた。</p> <p>教育目標をもとに、課題教育の目標や各学年の目標を設定した。</p> <p>各学年、各分掌が目標具現化のための具体的な方策を策定し、教育活動の一貫性を図った。</p>	<p>学校目標を学年目標、クラス目標とともに各教室に掲示し、教職員にも児童にも常に意識させる。また全校朝会や集会活動等で教育目標や学年目標を意識させるような機会を増やす。</p> <p>各教師が教育目標の旗印の下、団結し前進しているということをしっかり実感できるようにする。日々の授業や指導を何のために行っているのかが分かることが教職員のやりがいにつながり、充実した教育活動が実現できる。</p>	

研究テーマ		評価
(1) 研究テーマの達成に向けた充実した教育活動の展開 (2) 研究テーマの具現化と指導の充実		3.3
取組とその成果	課題と改善策	
<p>研究テーマ「自ら求め、はたらきかける子どもを育てる」を達成するため、学年毎に具体的な目標を設定し、授業研究に取り組んだ。</p> <p>「メディア・ICTを効果的に活用して思考力・表現力を育てる」をサブテーマに設定し、教材提示器や大型モニター、タブレット等を使いながら授業形態の工夫に取り組んだ。</p> <p>各学年、各教科の単元の中で、メディア・ICT活用が有効なポイントを模索し、児童が主体的に活動できる学習過程(アクティブラーニング)を工夫した。</p>	<p>研究テーマに沿って年4回の全体研究授業を行い、専門知識のある外部講師を招いて助言してもらったが、それをどう日々の授業や指導に生かすかが課題である。少しでも質の高い授業が実現できるよう、試行錯誤していく必要がある。</p> <p>主に研究主任が先進校視察や研究指定校の研究会、外部の研修会等への参加を薦めてきたが、参加する者が固定化している。伝達講習することで、他の教員も研修の成果を共有することができる。</p> <p>ICT活用をさらに推進するため、機器の整備と拡充、各個人のスキルアップに努める。</p>	